

手稲区保護司会 理事会 御中

令和 6 年 10 月 31 日

手稲区保護司会見直し検討委員会 検討結果報告書

作成者 手稲区保護司会活動見直し委員会
委員長 安部 伸一

I. はじめに

委員会設置の目的と経緯

本年 4 月に板垣会長より（持続可能な保護司会活動を目指して）活動の見直しを目的に、令和元年以降に保護司として委嘱された 12 名を委員として発足しました。

以下、経緯について会長より委員会宛ての文書を引用します。

「長年続けてきた活動も時代の変化と共に見直しが必要と思います。やりがいと誇りを持って、楽しく活動することが何よりも大切と考えております。持続可能な保護司会活動を目指すには個人に掛かる経済的・時間的負担の軽減も求められていると感じております。そこで、在任年数の比較的浅い、慣例に染まっていない皆様に委員を務めていただき、会の活動や運営について疑問に思うことや、あるべき姿、要望など、忌憚なくご発言いただき、秋にはそれらのご意見をご提示ください。」との命により、検討を重ねてきました。

検討期間

令和 6 年 5 月より 10 月まで（全 5 回開催）

委員の構成

令和元年以降に保護司として委嘱された 12 名

（敬称略）安部伸一・加藤冬樹・加藤剛・粟崎寿也・川又苗穂美・古川恵
高坂一・金谷朋恵・上村英生・甲谷肇・杉江小百合・高階康之

検討内容の概要

次項の 9 項目について各委員からの意見を集約し現在の活動状況を分析した上で項目毎に改善点・疑問点等を整理し提案とする

1. パネル展について
2. 内閣総理大臣メッセージ伝達式・決起集会・街頭啓発活動について
3. 公開ケース研究会について
4. 作文コンテストについて
5. 分区の役割について
6. 会費等経済的負担について
7. 組織改変の必要性について
8. 上部団体との関わりについて
9. デジタル化・ペーパーレス化について

II. 検討結果に基づく提言（具体策、優先順位など）

《パネル展》 5/18・19開催のパネル展をとおしての意見

廃止提案

- ・啓発活動としての発信方法の見直し（SNS等の活用）
- ・効果の測定が不可能である

改善提案

- ・暑くない時期で良い、学生との協力体制に工夫が欲しい（個別の活動のよう）
- ・二日間開催ではなく1日で良い
- ・地域活動部は意欲的に活動していたが、社明運動という性質上、全員が関わると更に良い
- ・設営と撤収以外の拘束時間が長い（一人あたりの時間を短くしてはどうか）
- ・展示としての効果が少ないので、更に見やすい環境を作る
- ・パネル周辺に保護司がいると警戒され見てくれない（誰も居ない方が気楽である）
- ・「ダメゼッタイ」をキーワードに「飲酒運転・虐待・特殊詐欺・薬物乱用等犯罪抑止」展とするなど、検討してはどうか
- ・テーマとして社会的孤立を防ぐような内容を検討してはどうか

《メッセージ伝達式》

廃止提案

- ・単なるセレモニーである
- ・やっていることが悪いとは言えないが、中止を検討してはどうか

《決起集会》

廃止提案

- ・ 不要である 年度初めの総会と統合する

改善提案

- ・ 関係機関との連帯は必要

《街頭啓発 7/1》

廃止提案

- ・ 会に配分されるティッシュ等を他のイベントなどで配付する。
- ・ 配分される以外、購入はしない。

改善提案

- ・ 警察・官公庁などの実施する啓発活動に参画する

《公開ケース研究会》

改善提案

- ・ 人員・手順を工夫し省力化する
- ・ 名称や内容及び主催する意義について、合理的な説明が出来る状態が望ましい
- ・ ケースについて研究していないのであれば名称を変更して欲しい
- ・ 関係機関も多く担当者の負担は大きい
- ・ 教育機関と連携する機会は貴重である
- ・ 教育機関が求める内容になっているか検証が必要である
- ・ ケースについて研究して欲しい
- ・ ワークショップ形式はやめて欲しい

《作文コンテスト》

廃止提案（作文集について）

- ・ 作文集作成は、個人情報保護法等の配慮も必要である為、廃止してはどうか
（地域活動部の皆さんからもヒアリングしてはどうか）

改善提案

- ・ 作文コンテストの案内は全国すべての小中学校に一律に案内してほしい
- ・ 応募はインターネット経由とし、審査は統一基準にておこなって欲しい
- ・ 作文コンテストの審査は観察所でおこなって欲しい

《分区の役割》

廃止提案

- ・保護観察報告書に分区の記載欄があるため廃止は出来ないが、保護司会運用上のみ分区を廃止してはどうか。分区長や副分区長、会計などの役職者も減少する

改善提案

- ・分区での研修や会議の意義⇒分区毎に規約があるので分区内で協議されたい

《会費等経済的負担》

廃止提案

- ・会費は廃止、交通費の減額や廃止について総務部で検証し理事会で判断
- ・活動に対する経費不足は国の怠慢であるが、不足分を会費で補うことに不満
- ・交通費精算など現金の扱い・配付等が煩雑である

《組織改変の必要性》

改善提案

- ・まずは行事の数を厳選しなくてはならないが、組織改編・規約改正は必須である。
- ・会員数に対して会内の役職数が多数あることが負担の温床とも言える。
- ・必ずいずれかの部に所属しなければならないことが強制力を感じる。
可能な限り所属するようにしてはどうか。(必ず所属に賛成意見もあり)
- ・平日日中の活動が難しい現職者には心理的負担がある

《上部団体との関わり》

改善提案

- ・上部団体の会合は実際の出席が求められるが、厳選してはどうか
- ・制度の歪みを感じるので上部組織が財源を各会員に求めている理由を確認
- ・当日配布された文書の読み合わせ会や会費が必要な会合は欠席するなど
- ・人間関係構築に情報交換会のような場が適しているか、参加費用の捻出等、検討必要
- ・関係団体に対して、会議実施方法の見直しやメール等での意見集約など検討依頼
- ・特に総会などの規約により出席を求めるものは、規約を改正し効率化を図って欲しい(会議時間より移動時間が長い)(オンライン会議の開催など)

《デジタル化・ペーパーレス化》

廃止・改善提案

- ・ホームページの構成を見直し、印刷希望者のみがサポートセンターに文書を取りに行くように工夫してはどうか。時間と労力の効率化を図る
- ・イベント等の参加を確認する場合もメール・ライン等記録の残る形で電子化する
- ・全体のグループライン等を作成し、一斉送信することにより分区長の負担を軽減する
- ・総会は事前に書面表決とし、読み上げは行わない。資料は希望者分を印刷し配付する
- ・総会にかかる労力と時間と費用の効率化を図る
- ・各種印刷物は希望者のみに配付し、ホームページ確認もしくは配信とする

III. まとめ

今回の検討を通じて、手稲区保護司会は、地域社会のニーズに応え、更なる発展を目指すために、多様化と専門性の向上、地域連携の強化、そして活動内容の効率化が不可欠であるという結論に至りました。漫然と活動に参加してきましたが、改めて見つめ直してみることで、負担が軽減すること、また効率的な運営が可能なることにも気づくことが出来ました。保護司会活動は実費弁償の対象となる活動を中心に行い、一定期間経過後、あるいは会を取り巻く環境や情勢の変化があった際には、再度このような検討がなされることが理想的であると思います。

今後の課題

委員会としての提言は上記の通りですが、どんな改善を実行するにも、様々な困難があります。各提言の実現に向けた具体的なロードマップの作成が大切と思われます。特に関係する団体の多い公開ケース研究会は、事前の戦略や根回しなど、工夫しなければ進まないと思います。また、啓発活動については地域住民への効果的な情報発信方法など検討を継続していく必要も感じています。